

普及活動情勢報告（令和元年 7 月分）

高吾農業改良普及所

品質の良い露地ニラを 4 回刈ろう！



病害の特徴を写真で説明

7月12日、吾北農業公社で露地ニラの月例会を行い、露地ニラ生産者7名の出席がありました。

翌週から始まる出荷を前に、出荷規格や基準を再度確認しました。普及所からは、中央西農業振興センター普及課と連携して、今後の栽培管理や病害虫対策について指導を行いました。すでに黄化葉や白絹病が発生している圃場があり、定期的な薬剤防除は必要不可欠だということが理解されました。

今後も、ニラの品質向上に向けた指導を継続して行っていきます。

篤農家から若手へ！ ニラ作業の実演研修



篤農家の実演に
見入る新規栽培者

6月24日、ニラ新規栽培者2名を対象に、露地ニラにおける雨よけのアーチパイプの設置講習を、管内の篤農家の協力を得て、圃場での実演形式で実施しました。

篤農家から「マルチ穴7～8個の間隔を目安に、パイプを打ち込む」「高さを高くすると作業性は良くなるが、際のニラが焼けやすい」といった作業の注意点やコツの指南を受け、新規栽培者からは「作業のイメージがわいた」といった反応がありました。

今後も普及所では、新規栽培者の営農定着のために生産部会や関係機関と連携した支援を行っていきます。

イチゴ産地の担い手確保にかかるワークショップを実施



ワークショップ形式で
意見を出し合う参加者

6月24日、普及所で「イチゴ産地の担い手確保検討会」が行われ、佐川町役場、JA、普及所の職員10名が参加しました。この検討会は、佐川町の基幹品目の担い手確保の課題と方向性を明らかにし、効果的な方策を講じていくために実施したものです。

参加者からは、「新規就農者の確保目標」、「部会の受入れ体制」、「研修ハウスなどの条件整備」等について率直な意見や提案が出されました。

今後は部会での意向調査を実施し、産地ビジョンの策定や攻めの担い手確保につなげていきます。

夏秋高糖度トマト「びゅあトマト」の目慣らし会を実施



目慣らし会を行う生産者

6月25日、JA高知県仁淀川支部吾川支所で夏秋高糖度トマト「びゅあトマト」の目慣らし会が行われ、6名（4戸）の出席があり出荷時の色目統一を行いました。

普及所からは新規に導入した品種の特性と栽培管理、天敵利用について講習しました。生産者からは「生育初期の灌水管理を見直さないといけない」といった声があり、今後の課題として挙げられました。

今後も普及所は、2週間ごとに現地巡回を行い、土壌・汁液濃度の結果に基づいて栽培管理を指導していきます。

シシトウの目慣らし会を実施



目慣らしを行う生産者

7月3日にJA高知県斗賀野支所露地ししとう生産部会が目慣らし会を開催し、生産者6名が参加しました。

普及所からは、かん水管理や整枝方法等の基本栽培管理技術について説明しました。

生産者からは「かん水は勘でしている」、「pFメーターの価格はいくらか」等の実情や質問が聞かれました。

今後も普及所は、基本栽培管理について指導し、生産者の所得向上につなげていきます。

土佐茶の体験交流メニューづくり ～6次産業化チーム会～



茶園でできる
体験メニューは？

7月4日、日高村「霧山茶業組合」で、第1回6次産業化支援チーム会を開催しました。

組合では、土佐茶のファンを増やし売上向上につなげるため、交流施設を整備して、体験客を受入れる計画です。今までの体験受け入れ状況をもとに、月2回程度の予約制で、10人程度を受け入れることを共有しました。次回から、体験メニューの詳細な内容と、人件費や材料費をもとにした体験料金の設定を検討し、試行することになりました。

今後は、体験メニューの料金設定やカレンダー化などチーム会を開催して、受入れ体制づくりを支援します。